京都 平安京の天門

天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

◆天神さまと私　所功氏　宮司　特別対談

京都産業大学名誉教授　所　功

◆「文道会館」完成、総代・役員百三十人が参列して盛大に竣功祭

天満宮講社会長 千玄室裏千家大宗匠揮毫の扁額を除幕

北野天満宮社報 秋号　Vol.16
KITANO TENMANGU NEWS

日本文化の中心地 京都
その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

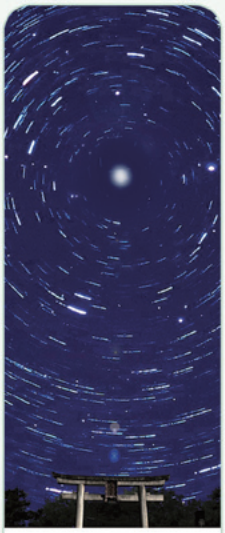
創建以来、御皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに将軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあって、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造（やつむねづくり）と称され、国宝の指定を受け、桃山文化の代表として、その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



京都 平安京の天門

【シンボルマーク】
平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク
（平安京については裏面参考）

表紙写真　―文道会館竣功 裏千家千玄室大宗匠揮毫 扁額「文道会館」を掲額―

「文道会館」の名称は、平安の御代より菅公を「文道大祖 風月本主」と讃え、学問をはじめとする日本文化の礎を築いた神として尊崇される由縁による言葉より、当宮に相応しい名として命名した。本会館は天神信仰の発展のみならず、日本文化発信の拠点として広く活用していく。

御挨拶

『文道会館』竣功にあたり

百三十名を超える総代・役員が参列し、文道会館竣功祭斎行

日毎に秋も深まり、紅葉の美しい季節となりました。皆様には益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

扨、この度当宮が平成三十九年に斎行致します千百二十五年半萬燈祭に向けた境内整備事業の一環として取り進めて参りました「文道会館」建設工事が、十月九日に無事竣功致しました。文道会館建設にあたりまして御尽力賜りました関係各位の皆様に対し、改めて衷心より篤く感謝と御礼を申し上げる次第でございます。

顧みますれば平成十四年三月、式年大祭「千百年大萬燈祭」が奉賛会長千玄室大宗匠以下役員のもと盛儀のうちに斎行されました。引き続き大萬燈奉賛会は、天満宮講社として再出発し、現在次なる千百二十五年半萬燈祭に向け新たな奉賛活動を展開して頂いております。その一環として進めております境内及び史跡御土居の整備も順調に進捗し、お陰様で版築工事や御土居展望所新設も完成、更に紅葉植樹等による景観の充実により、「史跡御土居のもみじ」は、京都の新たな紅葉の名所として広く認知されて参りました。

これも偏に千会長様をはじめとする総代・役員、天満宮講社の皆様の御奉賛のお陰であり、わけても千会長には紅梅殿移築や天神縁起絵巻ゆかりの船出の庭の復元造営、朝廷ゆかりの曲水の宴の開催、重儀北野御手水神事再興など、これまで執り行いました数々の文化行事に際して御指導を賜り、このたびの会館竣功にあたりましては、正面玄関の扁額の揮毫を戴きましたことは誠に有難く感謝の念に堪えません。

今後は本会館を文化発信基地として活用し、「北野大茶湯」の史跡を中心に、京都日本フェスティバルや様々な文化行事を展開する次第であります。

また前号で、天皇陛下の御即位に際して斎行されます大嘗祭に関する当宮の関係資料の紹介を致しましたが、一方我が国の「元号」策定には菅公が関わられ、後世に至りましても菅家が深く関わってこられたということに、深く感銘を受ける次第でございます。

菅公の御事蹟を讃え、天神信仰の奥深さに想いを巡らし、調査研究を通して、一層天神信仰の宣揚に努めて参る所存でございますので、皆様の格別のご理解ご協力をお願い申し上げます。

北野天満宮
宮司　橘　重十九

天神さまと私

今号は、国史学者で皇室問題にも詳しく、『菅原道真の実像』（臨川選書）などの著書で知られる所功京都産業大学名誉教授・モラロジー研究所教授をお迎えし、道真公や天神さまについて語り合って頂いた。

（聞き手 橘宮司・社報取材班）

所 功（ところ いさお）
昭和十六年（一九四一）十二月十二日。岐阜県生まれ。名古屋大学大学院修士課程修了（国史学専攻）。現在京都産業大学名誉教授・モラロジー研究所教授・京都宮廷文化研究所代表。法学博士（慶応大学）。
著書に『三善清行』（吉川弘文館）、『平安朝儀式書成立史の研究』（国書刊行会）『日本の年号』『年号の歴史』『日本年号史大事典』（いずれも雄山閣出版）、『天皇の人生儀礼』（小学館文庫）、『歴代天皇の実像』『皇室に学ぶ徳育』『皇室の伝統と日本文化』（いずれもモラロジー研究所出版部）、『皇位継承のあり方』『国民の祝日の由来がわかる小事典』（いずれもＰＨＰ新書）、『皇室事典』（共編、角川学芸出版）、『皇室典範と女性宮家』（勉誠出版）、『京都の三大祭』（角川ソフィア文庫）等

宮司　先生が菅原道真公（菅公）を研究されるようになったきっかけはなんでしょうか。

所　極めて単純です。私の故郷は岐阜県の揖斐という田舎町ですが、近くに天神さんがあり、子ども心にも天神さんのお祭りが大好きだったのです。歴史が好きで名古屋大学に入り、天神信仰か、道真公を研究テーマにしようと思っていたのですが、恩師の彌永貞三先生、またその先師の坂本太郎先生ともに道真公の研究者でして、こんな偉い先生と同じテーマを選んでも無理だと察したのです。そこで道真公の周辺の人物を勉強すれば、いずれ道真公に近づけると思い、菅公と同時代を生きた三善清行という文人公卿の研究に取り組みました。それによって別の角度から道真公を見ることができ、結果的にはよかったと思います。その後、宇多・醍醐・村上三代天皇の御記などを研究しているうちに、道真公に関する記述がよく出てきますので、ストレートではないのですが、細々と菅公の勉強を続けてきたというところです。

宮司　菅公は学者であり、政治家であり、教育者であり、また、文道大祖と呼ばれた歌人・詩人などなどいろんな才能を持たれた方であり、天満宮の職員として大変誇りに思っています。とくに六国史の記事を内容によって分類し、検索の便を図った『類聚国史』二百巻の編纂は、その後多くの学者に役立ったと思っています。

『類聚国史』の編纂は極めて大きな功績

所　その通りですね。道真公は先祖から学問をして来られた家柄です。その学問も研究者になるためではなく、国家に役立つ広い意味での政治家として、朝廷にお仕えする文人としての勉強をされてきました。『日本書紀』以来の日本の歴史を学習することによって現実を見直そうとされた、本当の大学者です。記事を内容事項別に分類したり、検索に便利なものを作られたのは、まずご自身の必要に迫られたからでしょうが、それがやがて多くの他の人々にも大変役立つようになったのです。菅公お一人でなされたのか、あるいはお子さんも含めたお弟子さんの共同作業だったのか、よくわかりませんが、かなりの部分を長い年月かけて一人でなされたのではないかと思っています。『三代実録』は、左遷された後で出来上がりますから、おそらく六国史のうち五国史の編纂をなさり、『三代実録』の部分は、後から関係者が追補したのでしょう。『文徳天皇実録』に至るまでは大部分を一人で分類され、それをお弟子さんなどが増補されたのだろうと考えられます。これを編纂された

大嘗祭班幣
五色帛　各五尺
布　一端
錦　二疋
祭奠料金　千疋
右
北野神社幣物祭奠料如件
明治四年辛未十月廿日
神祇省

当宮に残る大嘗祭班幣（明治四年）

のは、狭い意味での歴史の研究史料としてではなく、現実の政治・社会を見直すためにも歴史から学ばねばならないという、必要あってのお仕事であったと思われます。

宮司　当時としては画期的なものですね。

所　国史記事の単なる分類ではなく、内容項目の構成に神祇部を優先させることなどに、菅公の素晴らしい見識が示されていると思います。これはまもなく勅撰される『延喜式』もそうですが、また江戸時代の塙保己一も『群書類従』を編纂する際にお手本としています。六国史を内容別に並べ変えるとすれば、日本にはまず神祇があり、ついで仏事もある、ということを明確にして、広い意味で日本の国柄を明確にされたといえます。これは非常に大きな功績といってよいと存じます。

宮司　お話を聞いて納得しました。神社界でも古代史研究のうえで重視されている『延喜式』も最初が神祇式ですから。日本人の心の中にある国の姿は菅公精神の中にある『類聚国史』が礎になっていると思います。一度この世に出られ、神上がりされた方は他にもあるのに、全国一万社にも広がった方は菅公だけです。天神信仰の広がりについてお聞かせ下さい。

所　天神信仰そのものについては十分に研究しておりませんが、亡くなられて間もない頃に九州でも京都でもお祀りされたこと自体、例の少ないことです。しかも平安中期には北野社が勅祭にあずかり、天皇の行幸を仰ぐに至っています。また、民間でも天神信仰が全国的に広がっていくということは異例のことだと思います。それは何故か考えてみますと、いわゆる怨霊思想と無関係ではないとしても、むしろ菅公が真心の人であり、真心で朝廷にお仕えされたにもかかわらず、大宰府へ左遷され亡くなってしまったということが、立場を超えて人々にショックを与えたのだと思います。薨去されてから、その素晴らしさが一段と理解され、失ったことに対する同情や悲しみ、そういったものがおそらく天神信仰の原点にあると思われます。

宮司　私の一番好きな菅公の御歌が「心だに誠の道にかなひなば 祈らずとても神や守らむ」ですが、誠を尽くせば神の心に通じる、というのは菅公の御心そのものであり、日本人の心の奥底に宿っている感性だと私は思っています。先生のお話しですっきりしました。

所　「誠」を尽くす「至誠」というのは、日本人の精神史上、最も大切な要素だと思われます。幕末に活躍した吉田松陰の一生を貫いているのも「誠」ですし、また遠く飛鳥時代に活躍された聖徳太子も真心で「和の国」日本を作ろうとされたのだと思います。

菅公の誠の心が寺子屋で子どもを育てた

宮司　天神信仰が広がるのは江戸時代ですが、やはり寺子屋との関係も大きいと思います。

所　一般庶民の子どもたちは、読み・書き・そろばんが出来なければ奉公も満足にできない、だから寺子屋に通ったという一面は確かにあったでしょう。しかも、学問をすることによって、人間らしくなれるとか、人と仲良くやって行ける、そういう思いから寺子屋に通う子どもが多かった。そのおかげで、結果的にまっとうな生き方のできる日本人が増えたのではないでしょうか。寺子屋には天神さんのお像もテキストもあり、さっき宮司さまの仰った「誠」というのが人間として最も大事だということを、子ども心に沁みこませられるような寺子屋教育が行われていたわけです。

宮司　菅公の誠の精神が子どもたちを育てた、といっていいわけですね。

所　そう思います。私が通った岐阜県の田舎の小学校は、地元の神主さんが開かれた小さな寺子屋が基になっており、そこにも昔は天神さんのお像があったそうです。まして京都などには、寺子屋を基にした小学校がたくさんあります。明治初期の小学校でも、孔子の像と天神さんの像が掲げられていました。一方で外国の学問である儒教の先哲孔子を、他方で日本の学者を代表する菅公を並べて祀り仰いだわけです。お二人とも観念的な神ではなく人間ですから、自分たちには及びがつかないけれども、努力すれば近づけるにちがいないという思いです。それは一言でいえば、誠の道を貫かれた方に対するあこがれであり、その導きは大きかった思われます。

年号＝元号をつけることにも ずっと関与されてきた菅公の一族

宮司　菅公のご子孫が元号をお付けになったと承っています。元号と菅家の関係をお聞きします。

所　菅公ご自身も年号の案を作られた可能性は高いのですが、確証が残っていません。しかし、そのご子孫は、代々文章博士や式部大輔という文人官吏として重用されます。天皇のお名前や時の年号などは漢籍に基づいて選ばれ、これは式部大輔や文章博士が案を出す決まりになっていましたから、結果的に幕末まで菅公のご子孫が担当されてきたのです。

宮司　菅家の人たちは、それに応えるだけの学識があったわけで、素晴らしいことですね。

所　菅家の人々には、家の学問としての伝統が蓄積されていました。そのため、他に儒学の家柄もあったのですが、元号の文字を漢籍に基づいて考案する勘文は、平安中後期からほとんどが菅公の一族から出されます。朝廷では菅家に頼めば、天皇の名前も時の年号も、間違いなく考え出してくれるという信頼感・安心感があったのだと思われます。

宮司　それはいつごろまで続いてきたのですか？

所　確実なのは幕末に「慶応」を「明治」と改められた一八六八年までです。ただし今の「平成」という元号も、実は慶応改元の際（一八六五）菅家から出された案の一つです。ですから私は、「平成」の元号が決まった時、やはり菅原氏の学問が今も生きているんだな、とつくづく思いました。

宮司　ありがとうございます。感動するお話しばかりです。ところで、応仁の乱により途絶えていました大嘗祭が東山天皇の時、二百二十一年ぶりに復興します。先月号の社報で書かせて頂いたごとく、大嘗祭に先立つ儀式の「お祓い」が当宮境内の荒見川（紙屋川）で行われた記録も残っており、皇室儀式にも北野が絡んでいたことがわかります。その復興を強く主張されたのが東山天皇の先帝である霊元上皇です。当宮へ石灯籠を寄進（本殿前にあり）されるなど崇敬が篤かったその方が朝儀を復興されたことに、感慨深いものがあります。

所　江戸時代、幕府と朝廷は、初め対立しますが、まもなく協調関係になりました。あえていえば、幕府の威厳を高めるためには朝廷の権威を借りなければならなかった。とくに五代将軍綱吉の頃になると、朝廷を重んじることが幕府の正当性を保つ重要な要件になるわけです。先ほどの年号なども、朝廷から送ってきた案を検討して朝廷に返し、天皇の勅定という形でお決めになったわけです。朝儀の復興についても、そうした流れの中にあります。先ほど宮司さまが仰いました霊元上皇の果された役割は非常に大きいと思います。

宮司　これも先月の社報で報じましたが、この文献をご覧下さい。

後西天皇御宸筆「天満宮」の勅額を掲げる三光門

天皇礼服の大袖
（背面上方に北斗七星が描かれている）

御即位御装束御祭庭
悠紀主基図

歴代天皇の御崇敬篤い北野

北野は歴代天皇の御崇敬極めて篤く、皇室ゆかりの奉納品が数多く納められている。

一例に境内の三光門は、第百十一代後西天皇御宸筆「天満宮」の勅額を掲げ、次帝第百十二代霊元天皇は石燈籠や御宸翰などを多く奉納。

さらに上記紹介の大嘗祭ゆかりの御装束類は、続く第百十三代東山天皇御即位のものと伝えられる。

皇室、朝廷の御崇敬は言うまでもなく、北野天満宮の歴史、信仰の中核を形成し続けているのである。

所　社報で拝見した『御即位御装束幷御祭庭悠紀主基図』と標題にある文献ですね。これは唐風の即位礼に用いられた御装束と、和風の大嘗祭に定められた悠紀主基の図です。（ページを繰りながら）、年号が書かれてないので、年代を特定できませんが、一見して非常にいいものだと思います。なぜなら、後々の手が加わっていない非常に素朴な感じがするからです。二百二十年も途絶えていた大嘗祭を復興するに際しては、大変な苦労があったはずです。これが東山天皇に近いころのものだとすれば、復興に色々尽力した人々がいろんなものを参考にして描いた、ということも考えられます。

宮司　最後に、今一度先生にとっての菅公とはどんな存在なのかお聞かせ下さい。

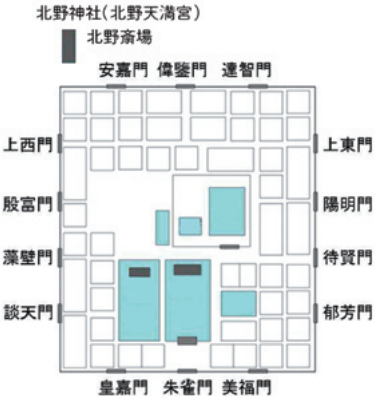
所　失礼な言い方かもしれませんが、私は道真公が好きであり、あこがれの人格神です。道真公は狭い意味での政治家・研究者ではなく、日本人として何をしたらいいのか、何をしなければならないかを考えられ、広く深く学問をされた方です。時代を超えて我々を導いて下さる本当に素晴らしい偉人だと思っています。

宮司　先生のお話しは、菅公を祀る神社の神職として感動の連続でした。様々な観点からのご教示、本当にありがとうございました。

古来大嘗祭の斎場に定められた北野、悠紀殿主基殿ゆかりの土地から御米を収穫

今秋、当宮の神社青年会である神若会北野祭保存会が、京丹後市大宮町周枳地区にて、崇敬者より田んぼをお借りし、田植えから稲刈り、収穫を行った。

収穫の際には近くに鎮座する大宮売神社で収穫感謝の参拝をし、大宮売神社の宮司様より北野天満宮との深い関りがあるとの話を伺った。



実際、当宮の古記録に、境内末社周枳社は、大宮売神社に鎮まる二柱の神をお祀りし、昔、北野の地が大嘗祭（天皇が即位の後初めての新穀を、天照大御神をはじめとする神々に自らお供えされる重要な祭典）の祭場に定められ、悠紀殿（ゆきでん）・主基殿（すきでん）の二神殿を造営して厳粛な祭儀が執行されていたことから、周枳（すき）（＝主基）の社名とともにその歴史を留めるべく境内に祀られていることが記されている。

平安時代、大嘗祭の斎場は平安京の偉鑒門（いかんもん）から北側を指す北野で行われていた。とりわけ大内裏の北西（天門）にあたる北野天満宮境内は、古来より天神地祇六十余国の神々を祀る地主社が鎮座する最も重要な聖地（社報十四号参照）であり、大嘗祭執行の中核を担う重要地であった。また境内西側に流れる紙屋川は平安当時、荒見川と称し、大嘗祭の始まりを告げる「荒見川祓」が行われた場所である。

このような大嘗祭と当宮の深い繋がりに感銘を受けた会員一同は、収穫した御米を北野天満宮に奉納し、その撤下米を以って「宮弁当」を丹精込めて調製し、祭礼奉仕者に振舞っている。同会はこの御縁と神恩に感謝し、今後も大宮町周枳地区にて収穫を続けると共に、祭礼奉仕に努めていく。

天神信仰、菅公の御心宿る文化・芸能の発信基地

「文道会館」完成、総代・役員百三十人が参列して盛大に竣功祭

天満宮講社会長 千玄室裏千家大宗匠揮毫の扁額を除幕

竣功した文道会館と「文道大祖 風月本主」の額を掲げる楼門

楼門西側に建設中だった「文道会館」が完成、十月九日午前十一時から天満宮講社会長 千玄室裏千家大宗匠、神社責任役員・総代ほか役員約百三十人の参列の下、盛大に竣功祭を斎行した。天神信仰発祥の地に建つ「文道会館」は、信仰の更なる昂揚を目指す教学的な活動を行う場として、また、菅公の御心が宿る文化・芸能など様々な発信基地として活用することにしており、大きな期待が寄せられている。

竣功祭は会館一階の多目的ホールに祭壇を設けて斎行された。祝詞奏上の後、千大宗匠、設計監理の財団法人建築研究協会高橋康夫理事長、工事を行った奥谷組の千田日出雄代表取締役、宮司が次々玉串拝礼して、竣功を祝った。

この後、玄関に移動して千大宗匠揮毫による扁額の除幕式が行われた。千大宗匠、宮司、責任役員、神社総代ら約二十五人が綱を引いて除幕、力強い筆致で「文道会館」と書かれた扁額が姿を見せると、盛大な拍手がわき上がった。

この後直会が行われ、宮司より「天満宮講社会長の千大宗匠様に扁額のご揮毫を頂いた文道会館の名称は、楼門に掲げる『文道大祖 風月本主』の扁額の言葉からとったものです。御祭神の菅公が薨去されてすぐにそのように称された、

竣功祭斎行

扁額除幕式

裏千家千玄室大宗匠揮毫扁額

最も大切な言葉です。この五年間で、千大宗匠様を始めとする氏子講社・梅風講社・天満宮講社・献茶祭保存会、その他の皆さま方の御尽力によって御土居もみじ苑の整備・紅梅殿の移設・曲水の宴の再興など様々な文化活動を行ってきました。そして、この立派な会館の建設となったわけです。今後はこの会館を起点として天神信仰の発揚、発展に努めて参りますので、今後とも益々の御支援を頂きますよう宜しくお願い致します」と、御礼の挨拶を述べた。

引き続き千大宗匠が「このような素晴らしい会館が完成したことを御祝い申し上げます。この文道会館は、菅原道真公の『文道大祖 風月本主』という言葉から生まれたものです。人間にとって一番大切なことは文をおさめるということです。この会館は京都の宝です。今の日本、色々な意味で大変な時代を迎えています。日本の国を誇りをもって治めていく大きな教育が必要です。菅公はそれをお教えになった方です。その菅公の御志を日本の隅々にまで伝え、また日本の古来からの精神を世界に発信していかねばならないと思っています。それが世界平和にもつながります。この文道会館がその発信基地として後世にまで続いていきますよう、皆さま方お一人お一人のご協力を今後とも宜しくお願いします」と祝辞を述べられた。

「文道会館」は、平成三十九年に斎行される千百二十五年半萬燈祭に向けての境内整備事業の一環として建設されたもので、二年前の六月に地鎮祭、昨年十一月に上棟祭を斎行して工事を進めていた。

鉄筋二階建て（地下一階）だが、周囲の景観

文道会館 南側

玉串拝礼（奥谷組千田日出雄社長）

竣成「文道会館」

外観正面

1階 正面玄関

1階 会館メインホール

2階 貴賓室

社務所

除幕式記念撮影

に配慮して木造の趣が漂う優雅な建物となっている。一階は最大三百人が収容可能な多目的ホールや社務所などがあり、二階は貴賓室・会議室・書庫など、地下は倉庫となっている。

「文道会館」の名称は、菅公が「文道大祖 風月本主」と崇められたことから「単なる神社の会館ではなく、天神信仰を広く発信していく基地であらねばならない」という宮司の強い思いから、菅公の志を繋ぎたい、という願いを込めて命名された。

北野はかつて歌舞伎や落語・連歌といった芸能・文化活動が盛んに行われきた経緯もあり、「多目的ホール」は伝統芸能の振興を図る場として幅広く提供、地域と連動した文化行事にも使っていくとともに各種文化講演会・展示会・発表会・茶会などの催しにも活用していくことにしている。

田邉副会長による乾杯

直会で挨拶される千会長

京都 平安京の天門

伝統の祭典・多彩な催しに彩られる秋の境内

境内に秋がやってきた。豊臣秀吉公の遺構である史跡御土居「もみじ苑」の開苑、天正の〝北野大茶湯〟の故事に繋がる献茶祭の斎行、昨年再興された菅公ゆかりの「曲水の宴」、さらには当宮から文化・音楽・食の魅力を国内外に発信する「KYOTO NIPPON FESTIVAL」の開催など伝統に彩られた祭典・多彩な催しが相次いで行われる。

史跡御土居「もみじ苑」、十月二十八日から開苑

菅公御歌　このたびは　幣もとりあへず手向山　紅葉の錦　神のまにまに

史跡御土居「もみじ苑」は、十月二十八日から十二月三日まで開苑される。とくに十一月十一日からはライトアップされ、昼も夜も錦秋の御土居のもみじが堪能できる。

史跡御土居は豊臣秀吉公によって築かれた天正の昔の遺構で、「もみじ苑」にはおよそ三五〇本の樹木があり、中には樹齢三百五十年から四百年に及ぶ古木も姿をとどめている。秋には見事に色づき、公開されてからまだ年数が浅いにも関わらず今では京都の市街地でも有数のもみじの名所となっている。一昨年秋、JR東海の「そうだ 京都、行こう。」キャンペーンのメイン会場に選ばれたこともあって、「もみじ苑」の人気は一層の高まりを見せている。

秋の紅葉は梅とともに菅公が愛された樹木であり、宇多天皇の吉野行幸に同行された際にも京都と奈良の国境で「このたびは 幣もとりあへず手向山 紅葉の錦 神のまにまに」（小倉百人一首所収）と詠まれている。

菅公の御神徳を偲び、また秀吉公の天正の昔に思いを馳せて頂くには絶好の錦秋の「もみじ苑」散策といえる。開苑期間中、今年も多くの奉納行事が予定されている。

露の五郎兵衛一門　もみじ寄席

京都連歌の会

天正の「北野大茶湯」の故事を今に伝える献茶祭

上七軒西方尼寺に残る千利休居士が用いた井戸

献茶祭は、豊臣秀吉公が天正十五年（一五八七）十月一日に境内北野松原で催した歴史上名高い「北野大茶湯」の故事・伝統を引き継ぐもので、明治十一年以来毎年十二月一日に斎行されている。

「北野大茶湯」は、豊太閤所蔵の名器の数々が展観され「茶好きの者は、武将だけでなく貴賤貧富を問わず参加せよ」と高札まで立てて開かれた大茶会で、北野の森には八百もの茶席が並んだといわれる。

境内中ノ森には、「北野大茶湯」で使われたという「太閤井戸」が、また一の鳥居西側の茶室・松向軒には細川三斎公が使った井戸「三斎井戸」、上七軒西方尼寺には利休居士が用いた「利休井戸」が残るなど、天正の名残りを示す遺跡が現在も保存されている。明治十九年には、大茶湯三百回記念献茶式が、また昭和十一年には三百五十年記念の昭和の大茶湯が開催されるなど、当宮の献茶祭は”天正の縁“を今に伝える伝統の神事といえる。

北野大茶湯図　浮田一蕙筆

オカリナと和歌の弾き語り

上七軒日本舞踊

京炎そでふれ！花風姿

天神真楊流

もみじ苑ライトアップ

北野天神太鼓会

もみじ苑公開期間中の主な祭典・行事

11月5日（日）	午後1時	京都連歌の会もみじ連歌奉納
11日（土）	午後5時	上七軒歌舞会 日本舞踊奉納
	午後6時	北野天神太鼓会 和太鼓奉納
12日（日）	午後5時	阿武野逢世・鈴江先子 オカリナと和歌の弾き語り
18日（土）	午後3時	露の五郎兵衛一門 もみじ寄席
	午後6時	北野天神太鼓会 和太鼓奉納
23日（木・祝）	午前10時	新嘗祭
	午後1時	同志社女子大学 京炎そでふれ！花風姿
25日（土）	終日	御縁日
	午後2時	天神真楊流 演武奉納
	午後6時	北野天神太鼓会 和太鼓奉納
26日（日）	午前11時	御茶壷奉献奉告祭
12月1日（金）	午前10時	献茶祭
		御奉仕 表千家不審菴 千 宗員 若宗匠
		当番 久田家半床庵

※都合により行事の変更・追加の可能性があります。

古式ゆかしく御茶壺奉献奉告祭・口切式

献茶祭に先立ち十一月二十六日には献茶祭で使用される抹茶の原料である碾茶（てんちゃ）の奉献奉告祭が本殿で斎行される。碾茶を奉献されるのは古くからの縁で山城六郷の茶生産者と茶業関係者で、産地ごとに茶壺は唐櫃に納られ、茶摘み娘を先頭にした御茶壺道中によって一の鳥居から本殿に運び込まれる。茶壺を神前に供えての奉献奉告祭の後、口切式が行われ、献茶祭保存会の役員が茶壺の口を切り、古式通りの検知が行われる。碾茶は抹茶にして献茶祭を迎えることになる。

献茶祭斎行 今年は表千家千宗員若宗匠のご奉仕

こうして十二月一日、御本殿での献茶祭を迎えることになる。ご奉仕は、在洛の四家元二宗匠が輪番で行われることが慣例であり、本年は表千家不審菴千宗員若宗匠のご奉仕となる。

献茶祭に協賛して、この日江戸時代の禁裏御用達「上菓子仲間」の流れをくむ老舗和菓子屋二十店で組織する「菓匠会」による飾り菓子の展示会が本年は竣功した文道会館で開かれる。

御神前で献茶される表千家 左海宗匠（平成 23 年）

菓匠会による飾り菓子の展覧

古式ゆかしく御茶壺道中

御茶壺奉献奉告祭・口切式

平安の雅を伝える朝廷ゆかりの「曲水の宴」

昨年千百余年ぶりに再興された「曲水の宴」が、今年も十一月三日（小雨決行、雨天の場合は四日に順延）、本殿西広場の「紅梅殿船出の庭」で執り行われる。

「曲水の宴」は、奈良・平安時代に盛んに行われており、庭に流れる小川に酒を入れた杯を流し、飲むとともに題に即した詩を賦すという雅な宴。菅公も記録で確認できるだけでも宇多天皇主宰の宴に四回招かれており、その際に創られた詩文も残っている。こうした経緯もあり、かねてから「曲水の宴」の再興を願っていた当宮では保存会を組織し、様々研究を重ねてきた。その結果、昨年和魂漢才を尊ばれた菅公精神に学び、和漢朗詠という初の試みに加え、白拍子舞も加えるという天満宮ならではの平成の「曲水の宴」を執り行い、大勢の参拝者を平安の雅に誘った。

庭の広さの関係もあり、今年も昨年と同様、一部・二部二回に分けて行われる。この日は北野天満宮講社（会長 千玄室裏千家大宗匠）の講社大祭の日に当たるため一部は講社員を対象とし、二部は一般参拝者の鑑賞となる。なお、今年は門川大作京都市長も詠者として加わる予定となっている。

文化・音楽・食の魅力を発信「KYOTO NIPPON FESTIVAL」

日本文化の礎となった天神信仰の発祥地から文化・音楽・食の魅力を国内外に発信しよう―。こんな意気込みの下、昨年初めて開催し大盛況を得た「KYOTO NIPPON FESTIVAL」が今年も十月二十一日から十二月三日まで開催される。

オープニングセレモニーは、十月二十一日午後四時から紅梅殿で行われる。当宮の神社青年会「神若会」北野天

神太鼓会の和太鼓演奏から始まり、杏仁ショーケストラが奏でる楽曲をバックに池坊・IKENOBOYSがいけばなパフォーマンスを繰り広げる。

今年のメイン企画は、竣功したばかりの文道会館での現代美術家永島千裕の個展「神のまにまに」と、人気アイドルグループ乃木坂46の伊藤万理華による企画展「伊藤万理華の脳内博覧会」の開催となる。永島は、当宮をモチーフにファンタジーあふれる世界観で描いた新作を発表。また、「伊藤万理華の脳内博覧会」は、ファッション・アート・文化にとどまらず様々なものに興味を示し、独自の世界観で世の中を見つめる彼女の脳内に迫る企画で、東京以外では初開催となる。

また、京都吉兆総料理長・徳岡邦夫氏プロデュースによる食や今年五百五十五周年を迎えた華道家元池坊によるいけばなのワークショップ、香や漢字といった日本の伝統文化を知り、体験できるコーナーなどが設けられる。

「国宝北野天神縁起絵巻と宝刀展Ⅷ」の開催
天神縁起の公開は十五年ぶり

宝物殿特別展として十月二十一日から十二月三日まで「国宝北野天神縁起絵巻と宝刀展Ⅷ」を開催する。（うち十一月一日から十二日までは「第五十三回京都非公開文化財特別公開展」）

特別展の最大の見ものは「国宝北野天神縁起絵巻」承久本（但し公開は十一月一日から）で、十五年ぶりの公開となる。また、長谷川等伯筆の「弁慶昌俊相騎図絵馬」（重文）も見逃せない。初展示以来若い女性に絶大な人気を誇る「髭切」を含む重文五振の太刀などおよそ四十振の刀剣展示は、八回目の展示となる。

北野御手水神事を再興
重儀「御手洗祭」を斎行

御本殿石の間通り抜け神事

菅公御歌

彦星の行きあひをまつかささぎの
渡せる橋をわれにかさなむ

八月七日午前十時から本殿で重儀である御手洗祭を斎行した。

この御手洗祭は、古来初秋に当たる旧暦七月七日に斎行し、北野四季祭の一つに数えられる大祓神事の意味を有する神事であった。室町期には、北野御手水神事として幕府も重視したほどの重儀として知られ、室町時代前期の醍醐寺座主・満済准后の日記に記されるほどだった。

昨年まで慣例により七月七日に執り行ってきたが、今年からはかつての重儀再興の意味合いをより強めるため、旧暦に合わせひと月遅らせての斎行となった。

御手洗祭に先立つ前日六日には、神前を祓い清め、翌日の御手洗祭斎行を奉告申し上げる御手洗祭前夕饌を斎行。

翌七日の御手洗祭は、古式に則り内陣に菅公御遺愛の松風の硯・角盥・水差し・梶の葉七枚をお供えした上、ナス・キュウリ・マクワなどの夏野菜、さらに素麺・御手洗団子等の神饌を献り、厳粛に執行した。

神前に御手洗団子を供える

重儀 御手洗祭斎行（8月7日）

オープニング 御手洗川渡始式

将棋大会 門川京都市長、桐山九段はじめ参加者らと記念撮影

厳粛な神事と多彩な奉納行事で連日賑わう 北野七夕祭盛大に挙行

「北野七夕祭」が、八月五日から十六日まで盛大に繰り広げられた。京都市の「京の七夕」会場としては三年目だが、当宮と七夕祭は菅公の御歌に因んで古くから縁の深い祭典であり、厳粛な神事斎行、多彩な奉納行事の数々に連日多くの参拝者が訪れ、賑わいを見せた。

開会セレモニーは五日夕、絵馬所前で行われ、北野周辺の住民や関係者約三百人が集まった。駆け付けた門川大作市長が「北野会場では歴史に基づいた本当の七夕神事を行って頂いており大変ありがたい」と挨拶。また橘宮司も「北野七夕祭の原点は菅公の七夕の御歌にあり、今年も地域の人と一緒になって盛り上げていきたい」と開会の言葉を述べた。

この後、参列者は御手洗川で足つけ神事をして、燈明を供え、十一日から始まる一般参拝者に先駆け、御本殿石の間通り抜け神事に臨んだ。

ライトアップに映える境内 参拝者、御本殿石の間通り抜けに感慨深く

期間中の境内は、史跡御土居を含めたライトアップで幻想的な雰囲気に包まれ、御手洗川では昼も夜も清らかな水に足をつけて邪気を祓い、燈明をあげる人が後を絶たなかった。

とくに十一日から十三日の三日間は、昨年に引き続き御本殿石の間通り抜け神事が行われ、日ごろは神職しか入れない石の間で参拝者らは内陣に向かって手を合わせ、虫干しされた御神宝・御装束を感慨深そうに拝観していた。

初開催 大政奉還百五十周年記念「天神さん子ども将棋交流大会」開催

大政奉還百五十周年記念「天神さん子ども将棋交流大会」が六日、社務所大広間で約七十人の小中学生が参加して開かれた。

「大政奉還以後の日本の驚異的な近代化の背景には江戸時代の教育水準の高さがあった」として、日本将棋連盟京都府支部連合会が、江戸の庶民教育の場、寺子屋と縁があり、学問の神様と讃えられる当宮で開催した。

有段者・級位者の二部門に分かれて熱戦を展開し、両部門の成績優秀者合わせて八人に、当宮から賞状と記念品が贈られた。

子どもたちが対局する姿を桐山清澄九段らプロが見つめ、門川大作京都市長と桐山九段の対局セレモニーも行われた。

燈明に七夕の願いを込めて参列する人々

静かな熱戦 天神さん子ども将棋大会

学業大祭斎行

泣き相撲 元気いっぱいの泣きっぷり

健やかな成長を願う「泣き相撲」

「北野天神泣き相撲」が五日、神楽殿で行われ、二歳までの赤ちゃん百人が「泣いたら勝ち」の勝負に挑んだ。

天神さまのご加護で健やかな成長を願う泣き相撲も今年で三回目。かわいらしい化粧まわしに鉢巻き姿で、お母さんらに抱かれた赤ちゃんが次々登場。境内は赤ちゃんの元気な泣き声と観衆の爆笑がこだまし、暑さを吹き飛ばした。泣きっぷりの判定により横綱・大関・関脇などの各賞が決まり、参加した赤ちゃん全員に手形や足形入りの賞状が贈られた。

「学業大祭」で成績向上祈願 祈願絵馬・七夕祈祷木の焼納式も

「学業大祭」は十三日午前十時から本殿で親子連れなど約五百人が参列して斎行された。

祝詞奏上の後、参列者代表の玉串拝礼に合わせ、全員が子どもの健やかな成長と学業成績の向上を祈願した。

また中ノ森広場の斎場では、昨年度一年間に入試の合格や学業成績向上など様々な願いを込めて奉納されたおよそ十万枚の祈願絵馬と北野七夕祭などで奉納された祈祷木を焚き上げる祈願絵馬焼納式が厳粛に執行された。

七夕五色百人一首北野天満宮大会

京都府内の教職員らで組織する「TOSSいちばん星」主催の「第二回七夕五色百人一首北野天満宮大会」が十二日、社務所大広間で小学生五十二人が参加して開催された。

青・緑・黄・橙・桃の五色（各二十枚）の札による百人一首。青札のみで行われ、上位成績者によるトーナメント戦で順位を決めた。

大盛況の特別展「宝刀展」

七月十五日から八月三十一日まで宝物殿で開催した「宝刀展VI伝説の太刀髭切」。オンラインゲーム「刀剣乱舞」とのコラボレーションに、刀剣乱舞宣伝隊長の「こんのすけ」も駆けつけ、連日宝物殿は大盛況であった。

今回も拝観者は十代から二十代の女性が非常に多く、刀を通して若い世代の方々に天神信仰の奥深さを感じて頂く良い機会になった。

好評だった刀剣乱舞 -ONLINE- コラボレーション

およそ十万枚の絵馬をお焚き上げ 祈願絵馬焼納式

刀剣乱舞 -ONLINE- 大人気こんのすけ登場

宝刀展　名刀を一堂に展示

門川京都市長、寺田市会議長はじめ
地域の皆さんが参列したオープニング

泣き相撲（左より 大関 門林慶汰くん・横綱 足立詩織ちゃん・大関 五百木啓太くん）

奉納演舞 同志社女子大学『京炎そでふれ！花風姿』

北野七夕祭 多彩な行事

第二回七夕五色百人一首大会
参加者全員で記念撮影

御手洗発祥の北野　北野御手洗団子茶屋

白熱の試合 百人一首大会

奉納演舞 舞踊家 佳卓（よしたか）

上七軒盆踊り

北野天神太鼓会と日本伝統芸能「猿まわし」共演

和太鼓奉納 神若会北野天神太鼓会

例祭

北野祭ゆかりの例祭、厳かに斎行 ― 皇室の弥栄・国家安泰を祈願 ―

かつての勅祭北野祭ゆかりの例祭を八月四日午前九時から本殿で、氏子総代を始め当宮役員崇敬者ら多数参列の下、厳かに斎行した。

勅祭北野祭は、永延元年（九八七）一條天皇の勅使参向・奉幣によって始まり、現在の例祭に引き継がれる当宮で最も重要な祭典である。

宮司の祝詞奏上に引き続き菅公が五歳の時にお創りになった御歌「美しや紅の色なる梅の花 あこが顔にもつけたくぞある」を基に芝祐靖元宮内庁楽師が作曲作舞された巫女舞「紅わらべ」を奉奏した。

宮司の玉串拝礼に続いて参列者の代表が次々玉串を捧げ、皇室の弥栄・国家安泰・五穀豊穣・氏子崇敬者の無病息災を祈願した。

秋晴れの中、御鳳輦往還 ― 瑞饋祭（ずいきまつり）、賑わう

第一御鳳輦の渡御（神幸祭　一の鳥居前）

京都の代表的な秋祭りとして名高い瑞饋祭が十月一日から五日（后宴祭）まで華やかに斎行された。二日は生憎の雨模様となったが、神幸祭（一日）、還幸祭（四日）とも絶好の秋日和となり、青空の下、御鳳輦を中心とする威儀物の長い行列が氏子区域を巡行した。沿道では多くの市民や観光客が見守り、御祭神が渡られた御旅所やその周辺は露店が並び、参拝者で大賑わいをみせた。

瑞饋祭は、御祭神が渡られる御旅所にずいき芋などの野菜で飾った「ずいき御輿」が奉安されることからその名がついた。御鎮座の往時を偲び、併せて秋の収穫に感謝する秋祭りとして知られている。

神幸祭の一日、午前九時から本殿で出御祭が厳粛に斎行され、菅公の御霊が御鳳輦に遷された。午後一時、一の鳥居前から三基の御鳳輦・梅鉾・松鉾・導山、さらに稚児・八乙女・騎馬・宮司の乗った馬車や供奉者の長い行列が出発、氏子区域を巡行した。御旅所到着後、大勢の参拝者が見守る中、着御祭を斎行し、八乙女が優雅に鈴舞と田舞を

ずいき祭

奉納した。

二日は雨となったが、御旅所では表千家の左海大宗匠ご奉仕による献茶祭が執り行われ、神若会北野天神太鼓会による和太鼓が奉納された。さらに三日は西ノ京七保会による特殊神饌「甲御供」の奉饌、北野祭保存会による献茶と茶会が行われた。

還幸祭の四日は午前十時御旅所で出御祭を斎行した後、午後一時三基の御鳳輦を中心に神幸祭と同様の威儀物の行列が出発。行列には牛の曳く御羽車も加わり、沿道で見守る人たちを魅了。夕刻、本社に着き、着御祭を斎行した。

また祭礼の期間中、御旅所に奉安されていた「ずいき御輿」は、西之京瑞饋神輿保存会の人たちによって、別の順路をたどって本社まで巡行した。

稚児行列

甲御供奉饌（御旅所）

八乙女　田舞奉奏（神幸祭）

平成二十九年度 ずいき祭稚児奉仕者名簿

役　名	名　前
八乙女	北村　柊奈
	青山　愛実
	平田　清那
	泉　　珠以
	横山　葵
	久保田　花音
	保田　小和
	服部　美悠
童子	海老名　和幸
	井鼻　瑛太
水干	畠山　凌一
	岩本　和真
半尻	岡野　幸芽
	岡部　吉希
汗衫	福井　美琴
	岡部　志朱久
袴	田村　展克
	大宅　辰伸
	大宅　泰之
	岡野　陽音
	辻田　望
	松本　遼太
	水上　仁
	川島　善

担い茶屋茶会（有斐斎　太田宗達氏ご奉仕）

瑞饋祭献茶祭
（表千家 左海大宗匠ご奉仕）

御羽車供奉牛と出迎える上七軒芸舞妓

北野天神太鼓会 和太鼓奉納（三条駐輦所）

ずいき御輿巡行（還幸祭 御旅所前）

花　傘

新茶奉献奉告祭

茶業界の繁栄を祈願

今年の新茶を神前にお供えして、茶業界の繁栄を祈願する新茶奉献奉告祭を七月二十五日午前十一時から本殿で斎行した。

新茶を奉献された宇治・宇治田原・城陽・佐山・京田辺・和束・醍醐・向島・綴喜・山城・南山城・朝宮などの生産地を始め京都市茶業協同組合から約五十人が参列された。

各代表や賣茶本流家元の渡邊琢祥宗匠らが玉串を捧げ、茶業界のさらなる発展と関係者の無病息災を祈願した。

消防訓練

夏の文化財防火運動 境内で大掛かりな消防訓練

夏の文化財防火運動初日の七月十二日、境内で大掛かりな消防訓練が行われた。

上京消防署・当宮自衛消防隊・翔鸞学区文化財市民レスキュー隊・翔鸞消防分団などから約六十人が参加。午後三時、本殿東楽の間縁下から出火の想定で行われ、本殿内から宝物類が搬出され、消防車や自衛消防隊による放水が行われるなど迫真の訓練を繰り広げた。

訓練終了後、白岩治上京消防署長と橘重十九宮司が講評をし、文化財防火の重要性を指摘した。

この後、社務所横で職員に対する消火器の使用法の指導があり、また社務所大広間では心肺蘇生法の講習会も実施された。

土用干し

蝉しぐれの中、「大福梅」の土用干し

正月の縁起物「大福梅」として使われる梅の土用干しが近畿地方の梅雨明けを待って七月二十日から約三週間がかりで行われた。

境内には五十種、約千五百本の梅の木があり、六月に採取した約二・二トンの梅の実は樽で塩漬けにされていた。土用干しは、この梅の実を夏の太陽に当ててカラカラになるまで干す作業。初日の二十日は、京都市内の最高気温が三四・九度という猛暑の中、神職・巫女・職員らがムシロを敷いた台の上に、樽から取り出した梅の実を重ならないように広げる作業に懸命だった。蝉しぐれの中、甘酸っぱい梅の香りが境内に漂い、参拝者も次々足を止め、作業を見守っていた。

土用干しを終えカラカラになった梅の実は、再び樽で塩漬けにされて保管され、袋詰めにして事始めの十二月十三日から参拝者に授与される。

奉納図画展

子どもの感性、画用紙一杯に 奉納図画展 二百三十点が入選

六十数年の歴史を誇る奉納図画展が八月二十一日から二十七日まで絵馬所で開催され、二歳の幼児から高校生まで六百七十八点の作品が展示された。夏休み中に描いた作品を奉納し、子どもたちのすこやかな成長を祈願する当宮ならではの伝統の絵画展。昆虫や動植物を始め本殿・三光門といった当宮境内を描いたものなど、画用紙一杯に子どもの感性が溢れた力作が並んだ。審査は展示初日の二十一日、三輪晃久（日本画家）、伊庭新太郎（洋画家）の両先生と橘宮司によって行われ、二百三十点の入選作が決まった。

【入選者授賞式】

入選者授賞式は、展示最終日の二十七日午後三時から入選者と保護者が参列して本殿で行なわれた。奉告祭でお祓いを受けた後、入選者の代表が玉串をささげ、参列者全員が図画の技術と学力の向上を祈願し、橘宮司が「賞を励みとして立派な人になってください」と一人一人に賞状と記念品を手渡した。

【入選者氏名】（敬称略）

〔天満宮賞〕鈴木拓斗（京都きらら幼稚園年少）、松尾直（せいしん幼児園三歳児）、東良昇（京都きらら幼稚園年中）、佐竹規周（北野幼稚園年中）、小笠原滉（妙林苑保育園年長）、安永桜輔（北野幼稚園年長）、井倉右託乃（西陣中央小一年）、小笠原蒼（衣笠小二年）、藤田ことの（衣笠小三年）、加藤雅史（西陣中央小四年）、田中こころ（洛央小五年）、清水梨乃（梅津北小六年）

〔京都新聞特別賞〕藤田駿希（衣笠小六年）

〔京都新聞賞〕藤岡礼伊（北野幼稚園二歳児）、河北諒大（第二せいしん幼児園三歳児）、籠利研吾（太秦幼稚園四歳児）、和田燎汰（北野幼稚園年中）、飯野雄一郎（北野幼稚園年長）、吉岡龍之介（せいしん幼児園五歳児）、岡田結風（西陣中央小一年）、一本木玲太（紫野小二年）、大原あずさ（西山小四年）

〔上京子供会会長賞〕塩田彩葉（北野幼稚園年長）、小野心奏（御所南小三年）

〔金賞〕新庄月乃（北野幼稚園年少）始め七十五人

〔銀賞〕北村花音（京都きらら幼稚園年少）始め百三十一人

□審査員の講評

北野天満宮のこの奉納図画展は、長い歴史を持っており、ここで賞をとったということは長く子どもの記憶に残ると思う。それが機縁となって画家の道へ進む子どももおり、選ぶのに毎年苦労する。出品した子どもは、みんな絵を描くのが好きな子どもだという感じがした。そんな中で、子どもの個性がよく出ている作品を賞に選んだ。

最近、中学生や高校生の出品作が少ないのが少しさびしい。幼稚園児の作品が多いのは、やはり指導者の熱意によるものだと思う。しかし、指導者があまり一つの型にはめようとすると、子どもの個性を摘み取ることにもなり、そのあたりの兼ね合いが難しい。

親子ふれあい写生大会

親子ふれあい写生大会表彰式

第三十九回上京親子ふれあい写生大会（上京子ども会育成連絡協議会主催）の入賞者表彰式が七月二十六日、社務所大広間で行われた。

写生大会は五月二十一日、京都府立植物園において親子ら約七百人が参加して行われ、優秀作品二百点（京都府知事賞・京都市長賞・北野天満宮賞などの特別賞は二十三点）を選び、この日まで絵馬所で展示していた。

「厳選 梅酒まつりin北野天満宮」開催

「厳選 梅酒まつりin北野天満宮」 市長を迎えて受賞者記念写真

絵馬所に全国の各種梅酒並べ試飲・即売会

神前に梅酒五十種供え、奉納式　紅梅殿では盛大に品評会の授賞式

「厳選 梅酒まつりin北野天満宮」が九月十六日から三日間、絵馬所に全国の蔵元で造られた梅酒約七十銘柄を並べ、試飲・即売会が行われた。一般社団法人梅酒研究会が梅酒の普及を願って開催したもので、これまで湯島天満宮や太宰府天満宮などで開いてきたが、京都では当宮での開催が初めて。

開催に先立ち十六日午後四時から本殿で、蔵元や研究会の会員ら約四十人が参列して梅酒奉納式が斎行された。神前に同会が厳選した約五十銘柄の梅酒をお供えし祝詞奏上の後、梅酒研究会の明星智洋代表理事や受賞した蔵元代表らが玉串を奉奠し、梅酒の普及や蔵元を始め関係者の無病息災を祈願した。

奉納式の後、参列者は神若会北野天神太鼓会の威勢のよい太鼓の音に迎えられて紅梅殿に移動、梅酒品評会による授賞式に臨んだ。

授賞式では宮司が、飛梅伝説に基づく北野天満宮と梅との関係を説明し、「当宮では、故事に基づいて境内で採れた梅を塩漬けにして干し、大福梅として毎年十二月十三日の事始めの日から参拝者に授与していますが、正月の縁起物として大変人気があります。これも梅が健康によいからで、梅酒まつりが当宮で開かれたのは喜びです」と挨拶し、引き続き門川大作京都市長が「梅酒まつりが京都の北野天満宮で開かれ、大変うれしい」と、歓迎の挨拶を述べた。

さらに明星代表理事が主催者を代表して挨拶し、「私は医師であり、この催しは商売で開くものではありません。梅酒は健康に大変よいものであり、多くの人にその良さを知って頂きたい」と、梅酒の効用を力説した。

この後、八月に東京で開催された「全国梅酒品評会」の授賞式が行われた。この品評会は七部門にわたり全国八十一社、百四十七銘柄の梅酒が出品され、厳正な審査の結果、四十三銘柄が入賞し、全体の最高金賞として日本酒梅酒部門の「水戸梅酒一品」（茨城県・吉久保酒造）が選ばれた。この日、入賞した銘柄の蔵元が次々明星代表理事から表彰された。

十六日から絵馬所で始まった「梅酒まつり」には連日、多くの梅酒ファンが駆け付け、様々な梅酒の試飲を楽しんでいた。愛知県から来たという女性の二人連れは「昨年は湯島天神に行きました。北野天満宮は梅の名所でありたが、こんな催しが開かれていてラッキーでした」と、上機嫌で試飲していた。また、梅苑内の茶店や史跡御土居内の茶席では、京の銘菓とのコラボも行われた。

日本酒梅酒部門を除く他の六部門の金賞を受賞した酒造会社は次の通り。

▽醸造アルコール梅酒／八鹿酒造（大分県）
▽ブランデーブレンド梅酒部門／秋田県発酵工業（秋田県）
▽本格焼酎梅酒部門／宗政酒造（佐賀県）
▽柑橘系ブレンド梅酒／中野ＢＣ（和歌山県）
▽ブレンド梅酒／北川本家（京都府）
▽にごり梅酒部門／白鶴酒造（兵庫県）

宝刀展VII『活撃刀剣乱舞』特別展賑わう

重要文化財　鬼切丸（別名髭切）

宝物殿では九月十五日から三十日まで宝刀展VIIとして『活撃 刀剣乱舞』特別展を開いた。オンラインゲーム「刀剣乱舞」の影響で相変わらずの〝刀剣女子〟（刀剣ファンの女性）ブームをみせており、連日若い女性が多数拝観、大賑わいを見せた。

『活撃刀剣乱舞』は、今、若い女性に絶大な人気を誇るテレビアニメで、館内に登場人物の写真パネルやイラストなどを配置した。入館した女性らは、写真パネルを見ながら展示されている当宮所蔵の名刀の数々を食い入るように見入っていた。

展示されたのは、「鬼切丸（別名髭切）」の名で知られる平安後期の太刀（安綱銘、重文）を始め豊臣秀頼公が慶長十二年（一六〇七）、社殿造営に際し奉納した太刀（國広銘、重文）、加賀前田家奉納の恒次銘（鎌倉）、備州長船師光銘（室町）、助守銘（鎌倉）＝いずれも重文＝の太刀など名品ばかり約三十五振。

菅公は、学問の神・文芸の神として崇敬される一方、戦国時代には武運長久を願う大名や武将の信仰も篤く、多くの刀剣類が奉納されている。毎年数振ずつ修理をし、修理済みのものを参拝者にみて頂こうと、一昨年初旬、特別展『宝刀展』として初公開したところ折からの〝刀剣女子ブーム〟で若い女性が殺到という宝物殿ではかつてない現象をみせた。閉館中も次の開催日を問う電話が全国から相次ぎ、この『活撃刀剣乱舞』で七回目の刀剣展となった。

担当者は「最近は刀剣類を見ようと海外からの参拝者も多くなっている。たとえゲームやアニメによる刀剣ブームといっても、多くの若い人たちに参拝して頂くことで菅公の御神徳の発揚と日本文化の発信に役立っていると思う」と、話している。

まち・ひと・こころが織り成す京都遺産
「北野・西陣でつづられ広がる伝統文化」認定記念イベント

『北野 西陣 その歴史と魅力を語る』文道会館で開催

井上満郎京都市歴史資料館長講演
西陣在住の二氏の熱のこもったトーク

北野西陣シンポジウム開催

京都市が制定するまち・ひと・こころが織り成す京都遺産の第一号として「北野 西陣でつづられ広がる伝統文化」が今年三月認定されたことを記念するイベントが、十月十四日午前十時から竣功したばかりの文道会館で開催された。

「北野 西陣 その歴史と魅力を語る」と題しての催しで、約二百人の市民が講師らの話に聞き入った。

上七軒歌舞会の芸舞妓の舞の披露でオープニングした後、門川大作京都市長と宮司が挨拶、寺田一博京都市会議長が祝辞を述べた。

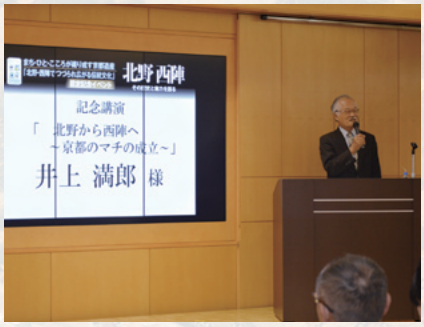
この後記念講演に移り、井上満郎京都市歴史資料館長が「北野から西陣へ～京都のマチの成立～」と題して講演された。井上館長は、「私は天満宮の氏子として生まれ育ちました。子どもの頃の境内は遊び場でした」と、北野・西陣に焦点を置きながら、平安中期の文人の随想や『宇治拾遺物語』『今昔物語集』『餓鬼草紙』といった説話集や絵巻を紐解きながら京都の町の変遷を話され「十一年にわたる応仁の乱は京都の町を焼き尽くしたが、これによって京都の人たちに自衛意識が芽生え、これが後に町衆となった」と、京都の歴史を話された。

引き続き濱崎加奈子氏（有斐斎弘道館館長・専修大学准教授）を司会者に織物会社社長井筒隆夫氏と写真家水野克比古氏のスペシャルトーク「私の北野・私の西陣」が行われ、長年西陣に住み、北野・西陣を愛してやまないお二人が北野・西陣の見どころ・魅力について次々語られ、「観光客の皆さんも、単に風景を見るだけではなく、この町に何回も足を運んで頂ければ本当の良さがわかると思います」と力を込められた。

最後は今年結成十周年を迎えた神若会北野天神太鼓会による太鼓演奏があり、催しを締めくくった。

門川大作京都市長・寺田一博京都市会議長が挨拶

北野天神太鼓会和太鼓演奏



井上満郎氏による基調講演

スペシャルトーク 井筒隆夫氏・水野克比古氏
聞き手 弘道館館長 濱崎加奈子氏

十二月一日　献茶祭

明治十一年に再興された献茶祭。使用される茶は毎年、山城六郷（木幡・宇治・菟道・伏見桃山・小倉・八幡・京都・山城）の産地から茶壺に詰めて奉献される。

古式に則り行われる御茶壺奉献祭並びに口切式から、献茶祭へと続く一連の神事が執り行われる。

御神前で献茶される表千家 左海宗匠（平成23年）

約四百年前の「北野大茶湯」にちなむ献茶祭が十二月一日、本殿で斎行される。在洛の四家元二宗匠の輪番によるご奉仕が慣例とされ、本年のご奉仕は表千家不審菴千宗員若宗匠。社務所や明月舎を始め上七軒歌舞練場などにも茶席が設けられ、「菓匠会」による飾り菓子の展示は今年初めて文道会館で行われる。

副席 華やかに上七軒歌舞会ご奉仕（上七軒歌舞錬場）

菓匠会の協賛による飾り菓子展覧

十一月二十六日　御茶壺奉献祭・口切式

献茶祭で使用される抹茶の原料である碾茶（てんちゃ）が十一月二十六日、山城六郷の茶師によって御茶壺道中で奉献され、本殿において奉献祭を斎行した後、献茶祭保存会役員が茶壺の口を切る口切式が執り行われる。

御茶壺奉献祭の様子

古式ゆかしく御茶壺道中

御神前に並べられた茶壺の数々

十月二十一日
一條天皇行幸始祭

寛弘元年（一〇〇四）に一條天皇が初めて当宮へ行幸された日に当たる十月二十一日、本殿で中祭式にて祭典を執行する。

十月二十九日
余香祭・献詠歌披講式

『重陽後一日』の名詩を作られた菅公をしのび、十月二十九日本殿で余香祭が斎行される。祭典では、車座の向陽会会員らが独特の節回しで献詠歌を披講する献詠歌披講式が執り行われる。

十一月二十三日
新嘗祭

その年に収穫された新穀を神前に供えて豊作に感謝する祭典。氏子崇敬者多数参列のもと、大祭式にて厳粛に斎行する。

十二月十三日
大福梅の授与

正月の縁起物として名高い「大福梅」の調製作業を十一月下旬に行い、事始めの十二月十三日から授与を開始する。

祭事暦（10月1日～12月31日）

［10月］

1日～5日　ずいき祭

〈ずいき祭祭礼日程〉

1日　神幸祭
- 午前9時　出御祭 本社
- 午後1時　行列出発
- 午後4時　着御祭 御旅所
  - 八乙女「田舞」「鈴舞」奉納

2日　午前10時　献茶祭 御旅所 表千家宗匠奉仕

3日　参　籠
- 午後3時　甲御供奉饌 御旅所
  - 西ノ京七保会による特殊神饌の奉饌

4日　還幸祭
- 午前10時　出御祭 御旅所
- 午後1時　行列出発
- 午後5時　着御祭 本社
  - 明月祭（芋名月）

5日　午後3時半　后宴祭 本社 八乙女「田舞」奉納

9日　午前11時　文道会館竣功祭

15日　午前10時　月次祭

17日　午前10時　神宮祭
- 午後4時　ずいき祭終了奉告祭

20日　参　籠

21日　午前10時　一條天皇行幸始祭（中祭式）
- 秋季摂末社奉饌

25日　午前9時　月次祭
- 午後4時　夕神饌

29日　午後2時　余香祭

［11月］

1日　午前10時　月首祭
- 午後4時　名月祭（豆名月）

3日　午前10時　明治祭
- 午後1時半　北野天満宮講社大祭・曲水の宴

15日　午前10時　月次祭

22日　参　籠

23日　午前10時　新嘗祭（大祭式）

25日　午前9時　月次祭
- 午後4時　夕神饌

26日　午前11時　御茶壺奉献奉告祭

27日　午前10時　摂社和泉殿社例祭

30日　午前10時　赤柏祭

［12月］

1日　午前9時　月首祭
- 午前10時　献茶祭　ご奉仕　表千家不審菴千宗員若宗匠
  - 当　番　久田家半床庵

13日　午前8時半　大福梅授与

15日　午前10時　月次祭

16日　参　籠

17日　午前9時　御煤払い

23日　午前10時　天長祭

25日　午前9時　月次祭
- 午後4時　夕神饌

28日　午前9時　注連縄飾り

31日　参　籠
- 午後4時　大祓式
- 午後7時　除夜祭
- 午後7時半　火之御子社鑽火祭
- 午後10時～午前3時　火縄授与

月釜献茶（11月1日～12月31日）

［11月］

1日	献茶祭保存会	北風　宗照	（明月舎）
12日	梅交会	扶　桑　会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	村上　宗美	（明月舎）
	松向軒保存会	藤井　宗恵	（松向軒）
26日	紫芳会	今村　宗幸	（松向軒）

［12月］

1日	献茶祭		
10日	梅交会	松　向　会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	休　　会	（明月舎）
	松向軒保存会	松向軒保存会	（松向軒）
24日	紫芳会	休　　会	（松向軒）

十二月二十五日　終い天神

今年の御縁日を締めくくる最後の天神さんは「終い天神」と呼ばれ親しまれている。

多くの露店が並び、正月用品を購入する参拝者で終日にぎわう。

十二月三十一日　大祓式

大晦日恒例の祭典。一年間の罪や穢れを託した人形を祓い清め、心身ともに清々しく新年を迎えるための祭り。多くの参列者が訪れる。

梅風会だより

結成三十五周年記念
平成二十九年度全国天満宮梅風会京都府支部総会並びに一泊研修旅行

平成二十九年度の全国天満宮梅風会京都支部（宇佐美伸二支部長）の総会ならびに研修旅行が九月十一日、十二日の一泊二日の行程で、香川県・岡山県方面を舞台に開催された。

梅風会京都府支部は、去る昭和五十八年六月に京都府内に御鎮座する天満宮・天神社が集い、これに奉仕する神職の連携と相互の親睦を図ると共に、天神信仰の発揚と氏子崇敬者に対し菅公精神の教化育成に努めるべく結成され活動を展開してきた（現在会員神社五十五社）。また総会では橘重十九顧問（北野天満宮宮司）より、結成当時、混沌とした府下の神社状況の中で尽力された先達の偉績が紹介された。

宇佐美支部長以下参加者三十二名は、讃岐国一宮田村神社に正式参拝の後、池田宮司より由緒説明を伺った。引き続き、金刀比羅宮を自由参拝し、宿泊先の琴平温泉にて三十五周年を祝う懇親会が開かれ、盛会のうちに研修を終えた。

文道会館にて「和の学校こころ塾」開催

文道会館竣功祭が斎行された十月九日午後、NPO法人「和の学校こころ」塾の会場として多目的ホールが使われた。能楽名所を巡るシリーズの「能『右近』『妻戸』『土蜘蛛』ゆかりの地を巡る」という催し（京都府・京都市後援）で、参加者は種田道一公益社団法人能楽協会理事（裏千家茶道専門学校講師）の講演に耳を傾けた。

神若会だより

第26回総合武道演武祭で天神太鼓披露

武道の普及と発展を通して、豊かな人間形成と青少年の健全な育成を目指し行われる第26回総合武道演武祭が、九月十七日旧武徳殿（現平安道場）にて開催され、開会式で神若会北野天神太鼓会が和太鼓を披露した。

会場となった旧武徳殿は、北野天満宮境内に建立されていた武徳殿（社報夏号第十五号参照）が元であり、当宮と武徳殿との縁は極めて深い。

そのようなご縁の中、日本全国・世界各地から訪れた武道家を前に、日本の伝統文化である和太鼓の迫力の演奏で魅了した。

大絵馬「平成の雲龍」を奉納

医療法人理事桂木さんと画家塩谷さん

大阪市の医療法人理事桂木末太郎さん（84）と京都市上京区の画家塩谷榮一さん（76）が、和紙系の強い布に描いた龍の大絵馬を奉納され、八月十八日本殿で奉納奉告祭が斎行された。

塩谷さんは、各地の神社などに同様の絵馬を奉納されており、友人を介して知り合った桂木さんの知己を得て、当宮の絵馬所へ平成の夫婦龍の奉納を発願された。

絵馬は、横四・三メートル・縦二・三メートル・重さ約七〇キロ。絵馬の素材は、紙子（紙製の丈夫な衣服）に使われた和紙で織り上げた強い布に当宮のご神水・ご神酒で墨をとき、金銀箔を使って約一年がかりで描き上げ、長持ちするようガード加工したという。

奉告祭後、桂木さん、塩谷さん、加藤権宮司が龍に眼を入れた。塩谷さんは「学問の神さまであり、受験生の後押しをする思いで龍の絵を奉納した」と語られ、桂木さんは「素晴らしい絵であり、三百年後には国宝になってほしい」と、話されていた。

北野祭保存会 祭礼奉仕に向けて決起集会開催

九月九日、社務所広間にて北野祭保存会の決起集会が開かれた。京都文化博物館の西山剛先生により、北野祭礼絵巻の解説が行われ、北野祭の旧儀復興を目指す会員一同が自己研鑽に励んだ。

また、十月一日から斎行された瑞饋祭に向けては、祭礼までの期間会員が自主的に社務所に集まって、着付けのレクチャーを行い、昨年の巡行映像を見直すなど、よりよい奉仕ができるよう取り組む姿勢が見られ、会員の奉仕に対する意識向上が図られた。

正式参拝された皆様（敬称略）（七月～九月）

七月　五日（水）　八柱神社氏子総代会
七月　二十三日（日）　ＪＲ東海親子で行く修学旅行（他六回）
七月　三十日（日）　日本北陸書道院
八月　六日（日）　立正大学日蓮教学研究所
八月　九日（水）　全国社寺等屋根工事技術保存会
八月　十六日（水）　國學院大學瑞玉會
八月　二十六日（土）　慶應義塾関西婦人三田会
八月　二十八日（月）　日本将棋連盟京都府支部連合会
九月　九日（土）　神道扶桑教一行
九月　二十五日（月）　北野祭保存会　さが美（他二回）

挙式された皆様（七月～九月）

七月　二十二日（土）　眞田 陸・裕加　ご夫妻
九月　十七日（日）　岸田 悠佑・麻由　ご夫妻
九月　二十三日（土）　星野 康平・綾　ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

天神さん 思い出写真館

昭和三年春斎行の千二十五年半萬燈祭に際し、影向（ようごう）の松の植え継ぎが行われているが、二枚の写真は、その松を運ぶ風景と植え継ぎ奉告祭の模様を撮ったものである。

毎年、初雪の日に天神さまが樹上に影向（降臨）され、歌を詠まれるという伝説に基づく松で、代々植え継ぎされ今日に至っている。

『千二十五年祭北野会要誌』によれば「宝暦頃及び明治七年に植え継がれたが枯損せし、久邇宮多嘉王殿下より大宮御所前の松樹を御寄進され、氏子講社員が松樹を積んだ牛車を曳き、河原町通より千本中立売を経て社頭に到着」と記され、五日後に奉告祭が斎行されている。

市電のレールが見える松曳き写真には「当社神苑通過」とあり、奉告祭の写真には「久邇宮殿下御寄進」の木札の字が読み取れる。

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

七月「流」

ひとときは流れを止めてふりかえり
　生きるゆとりを満たされてこそ　京都市　今井　輝子

祭り日は宮の参道勇ましく
　少年乗せて流鏑馬駆ける　岐阜県　波多野千寿子

流鏑馬や伝へ正しき勝聖馬
　大当りにて吉事にわくなり　京都市　小山　博子

深山に岩間垂る水拝みつる
「あの日わたしは」テレビを見しに　福井県　武曽　豊美

彦根城庭の古池の鯉の群れ
　流れにそってずいと泳げり　大阪府　村島　麗門

曲水の流れに寄するうたことば
　別離の庭に羽觴流るる　東京都　白石　雅彦

君が袖流水紋や描くらむ
　涙え拭かじされど触れたし　東京都　岡田季実子

夏の夜を行きつ戻りつ灯籠の
　火よ水の尾を急かず流れよ　京都市　朝比奈栄子

【評】川や池の流れ、水に映るものの動き、水の流れのごとき形を捉えたもの。そして人生の流れを感じ取るもの。人は水とともに生まれ、水に浮かびつつ、流れていく。

八月「兄」

兄とこそ敬ふ人と会ひたけれ
　拠りどころとも頼らまほしき　京都市　今井　輝子

十代の頃より従兄詩を編みて
　その影響か我は歌詠む　大阪府　村島　麗門

ガ島より奇蹟の生還あらむとぞ
　ひたぶる兄を待つ母逝けり　岐阜県　波多野千寿子

初めての授業参観たらちねの
　姿浮かびてそっと手を挙ぐ　京都市　小山　博子

「お兄ちゃん」呼ばれしわれや妹二人
　らしきことなく辿るも八十路　福井県　武曽　豊美

八月に兄弟集ふ真ん中に
　いつも笑顔の母の手料理　京都市　若狭　静一

弟国の向日明神薬師仏
　兄国坐して萬代を経む　長岡京市　智野利恵子

菅公の北野の愛でる花の兄
　春鶯囀の楽ぞめでたき　東京都　白石　雅彦

【評】幼き頃の兄弟の思い出や、兄のように慕う人のこと、そのような人に会いたいと願う純粋な心。そして、戦争で亡くなった兄のことを母の目をとおして偲ぶ歌がこころに沁みる。

九月「桂」

みやこにて桂といへばもろ〻の
　思ひ浮ぶはいにしへ由来　京都市　今井　輝子

故事なるや名にもゆかしき渡月橋
　桂の男女の風情を伝ふ　福井県　武曽　豊美

姉弟で月の桂を見てますか
　天に召されし伯母とたらちを　大阪府　村島　麗門

此の孫も末は我が家の桂なり
　今は抱かれて鯉幟り差す　岐阜県　波多野千寿子

聖御所の桂の花の琴の音は
　大陸と結ひ甘く薫れり　京都市　小山　博子

名にし負ふ橋を流るる桂川
　月照らすとも野分忘るな　京都市　若狭　静一

都なる桂の離宮市松は
　その藍その白静かなりけり　東京都　白石　雅彦

【評】中国古代の伝説では、月には斬っても斬っても枯れない桂の樹が生えているという。桂川流域には月の信仰にかかわる社寺や地名が残る。

御旅所献詠「酒」

撤饌の天神さまの梅の酒
　器に活けり梅花一輪　福井県　武曽　豊美

子も孫も大好物はお酒なり
　薬飲むのを見るも痛まし　岐阜県　波多野千寿子

コンビニの「おでんはじめました」についつられ
　新酒を一本求めて帰る　大阪府　村島　麗門

清めとも思ひし酒も神まへに
　すがしきこころつたへたきもの　京都市　今井　輝子

驚きの夏伝統の京の偉力
　あわ出る甘酒祭りの名物　京都市　小山　博子

張り紙に新酒とありしひと瓶を
　求め今宵の期待ふくらむ　京都市　若狭　静一

美味し水美味し瑞乃穂美味し酒
　日の本照らす豊かなりけり　東京都　白石　雅彦

城下にて望月浮かべ呑みをれば
　伏水の港わが都なり　東京都　岡田季実子

【評】古来、人は神に酒を供えてきた。自然の恵みに感謝し、神人をつなぐ象徴でもある。先だっては天満宮で梅酒祭も行われた。

平成30年兼題

1月	語
2月	東風
3月	曲水
4月	蓬
5月	磯
6月	兆
7月	雷
8月	あかつき
9月	琴
御旅所	歩
10月	浅茅
余香祭	結
11月	芒
12月	暦

●献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授
藤井 譲治

「社頭古絵図」
―御神木・二本杉―

「社頭古絵図」の中央左にひときわ目を引く二股の杉が描かれている。この杉は、応永一四年（一四〇七）に書かれた「神変霊応記」という書に「二本杉」の名で初めて姿を見せる。

この「神変霊応記」は、本地垂迹の立場から当社の本地と摂末社の祭神について詳しく記したものであるが、そこでは、この「二本杉」は、南門内にある摂末社の説明が終わったあとに、神前への通りであるので、参拝の所作をする、この杉は御神体の杉であり、本社の本地五仏の一つ聖歓喜天が本地であり、所願成就の神木である。

と記されています。この二本杉の所で「所作」をするとあることについては、「社頭古絵図」をよく見ると二俣の杉の根元で合唱している男の姿が描かれています。

また説明のなかの「本社の本地仏」については、北野社の本地仏は一般には十一面観音とされていますが、ここに記されたようにこの時期には五仏が本地仏とされ、その仏は、十一面観音のほか、阿弥陀如来・毘沙門天・大聖歓喜天・大弁財天でした。

二本杉の本地仏である大聖歓喜天の原型はインドのガネーシャ神と言われ、仏教に取り入られてからは、大自在天の子、韋駄天の兄弟とされました。大聖歓喜天は、夫婦和合や、子授けの神様としても知られています。

この二本杉は、室町時代に本社が被災した折に焼失したともいわれますが、狩野松栄（一五一九～九二）が描いた「北野社頭図」には二本の杉が描かれています。

しかし、江戸時代には、この大杉は信仰の表舞台から退いたようで、安永九年（一七八〇）に版行された京都の地誌『都名所図絵』に収録された北野天満宮の社頭図には、この杉の姿を見ることはできません。

この二本杉は、その後、雷や風雨等で立ち枯れしますが、今は地上から五メートル近い幹を残し、「大杉社」の神体として祭られています。

北野曼荼羅図に描かれる大杉社と参詣する人々

京都 北野天満宮発、『日本の美しさを未来につなぐ』
伝統文化とアート・食・音楽の融合型フェスティバル

KYOTO NIPPON FESTIVAL

京都ニッポンフェスティバル

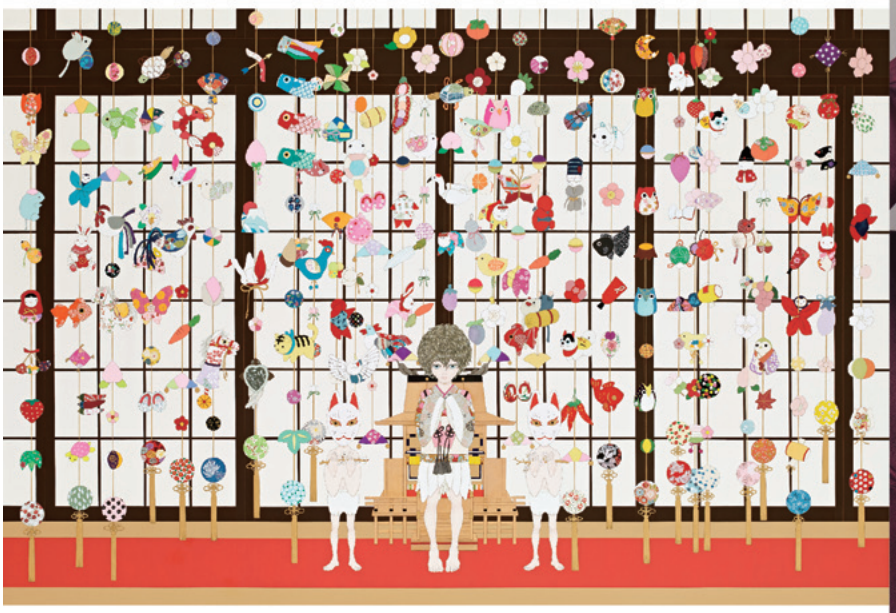
2017.10.21(sat.) → 12.03(sun.)

ART アート展

■会場：北野天満宮 文道会館

有料

永島千裕 個展「神のまにまに」



BIRTHDAY ©Chihiro Nagashima Courtesy of imura art gallery

北野天満宮にまつわるエピソードやモチーフを永島らしいファンタジー溢れる世界観で描いた新作を発表します。

■開催日程：10/21(土)～12/3(日)
■開催時間：9:00～20:00(最終入場19:30)
■会　　場：北野天満宮 文道会館

伊藤万理華の脳内博覧会

伊藤万理華(乃木坂46)が考えるFASHION、ART、MOVIE、RADIOの展覧会『伊藤万理華の脳内博覧会』をKYOTO NIPPON FESTIVALにて開催いたします。

■開催日程：10/21(土)～12/3(日)
■開催時間：9:00～20:00(最終入場19:30)
■会　　場：北野天満宮 文道会館

KYOTO NIPPON FESTIVAL

■KYOTO NIPPON FESTIVAL アート展　チケット情報

〈前 売 券〉●永島千裕 個展「神のまにまに」+「伊藤万理華の脳内博覧会」+「もみじ苑」入苑券
KNF特別鑑賞券　1,400円(税込)
小学生以下　700円(税込) ※3歳以上有料

〈当 日 券〉●永島千裕 個展「神のまにまに」+「伊藤万理華の脳内博覧会」+「もみじ苑」入苑券
KNF特別鑑賞券　1,600円(税込)
小学生以下　800円(税込) ※3歳以上有料

詳しくは公式ホームページへ：http://www.kyotonippon.com

STAGE ステージ ■会場:北野天満宮 紅梅殿 無料

北野天満宮紅梅殿に特設ステージを設置し、オープニングセレモニーやFM COCOLO/FM802による公開録音を開催。

「KYOTO NIPPON FESTIVAL 2017 オープニングセレモニー」

10月21日(土)16:00〜

杏仁ショーケストラ×IKENOBOYS

神若会(和太鼓)

MC:野村雅夫

FM COCOLO 「SUNDAY MARK'E 765」公開収録

10月21日(土)13:00〜

GUEST:JAZZ DOMMUNISTERS
(N/K a.k.a 菊地成孔 + 谷王 a.k.a 大谷能生)

DJ:マーキー

FM802 「Beautiful Harmony」公開収録

10月21日(土)17:00〜

DJ:Dream Ami

DJ:大抜卓人

FM COCOLO 「SUPER J-HITS RADIO」公開収録

10月22日(日)14:00〜

GUEST:一青窈

DJ:加藤美樹

FM802 「AWESOME FRIDAYS」公開収録

10月22日(日)16:00〜

GUEST:Little Glee Monster

DJ:飯室大吾

FOOD フード ■会場:絵馬所/もみじ苑内特設会場 有料

京都吉兆 KYOTO KITCHO

京都吉兆 KNF限定スペシャルメニュー

「世界の名物 日本料理」を信条に、五感で味わう日本料理を提供する京都吉兆。地域活性化をテーマに京都産の食材をメインに使った特別メニューをご用意しております。

京都綾部産ぼろたん栗入り生湯葉ぜんざい

■価　格:1,000円(税込)
■会　場:北野天満宮 絵馬所
■開催日程:10/21(土)、10/22(日)
■開催時間:11:00〜売り切れまで

京丹後産鹿肉のつくねと塩チャーシュー入り担々麺

■価　格:1,000円(税込)
■会　場:もみじ苑内特設会場
■開催日程:11/25(土)、11/26(日)
■開催時間:11:00〜売り切れまで

※数に限りがございます。※もみじ苑へは入苑料が別途かかります。

AREA MAP エリアマップ

WORK SHOP ワークショップ 有料

京都の秋を堪能する いけばなワークショップ

■開催日程:11/19(日)、11/24(金)
11/27(月)、12/2(土)
12/3(日)
■開催時間:①11:00〜12:30、②13:00〜14:30
■会　場:北野天満宮 社務所
■価　格:2,000円(税込) ※材料費込

香木の香りを楽しむ会

■開催日程:11/17(金)、11/20(月)
■開催時間:①11:00〜
②13:00〜
③15:00〜
■会　場:北野天満宮 東門 明月舎
■価　格:4,000円(税込) ※材料費込

漢字体験ワークショップ

古代文字の世界を体感・ハンコ作りもしくは缶バッジ作り体験

■開催日程:ハンコ作り　11/19(日)
缶バッジ作り 11/24(金)、11/27(月)
■開催時間:①13:00〜
②15:00〜
■会　場:北野天満宮 一の鳥居 松向軒
■価　格:1,000円(税込) ※材料費込

曽和鼓堂・小鼓で天神さんを囃す

■開催日程:11/26(日)
■開催時間:①10:30〜12:00、②13:00〜14:30
■会　場:北野天満宮 明月舎
■価　格:2,000円(税込)

お問い合わせ
京都市観光MICE推進室　TEL 075-746-2255

©水野秀比古

写真家水野克比古氏・秀比古氏と撮る北野天満宮の紅葉

■開催日程:11/21(火)
■開催時間:7:45〜9:30
■会　場:北野天満宮 絵馬所・もみじ苑
■価　格:1,500円(税込)
■申込受付:絵馬所前7:30より先着順に受付

お問い合わせ
京都市観光MICE推進室　TEL 075-746-2255

京都伝統産業ふれあい館 京都の伝統工芸制作体験

■開催日程:11/11(土)、11/18(土)
12/2(土)
■開催時間:①13:30〜14:30、②15:00〜16:00
■会　場:北野天満宮 神楽殿
■価　格:1,000〜1,300円(税込)
※詳細はホームページにて

お問い合わせ
京都市観光MICE推進室　TEL 075-746-2255

ACCESS MAP アクセスマップ

＊バス停❶「北野天満宮前」・バス停❷「上七軒」
Ⓐ JR「京都駅」▶市バス〈50号・101号系統〉　▶バス停 ❶・❷下車(所用時間30分)
Ⓑ JR「円町駅」▶市バス〈203号系統(北行)〉　▶バス停 ❶・❷下車(所用時間15分)
Ⓒ京福北野線「北野白梅町」駅下車　徒歩 約10分

KYOTO NIPPON FESTIVALサテライト会場 ジェイアール京都伊勢丹2階＝特設会場

■開催日程:10月18日(水)〜24日(火)午前10時〜午後8時

北野天満宮での本会場に先がけ、ジェイアール京都伊勢丹にサテライト会場が登場。
現代美術家 永島千裕の作品展示、杏仁ショーケストラのトークライブや他イベントを開催。

KYOTO NIPPON FESTIVAL

会場:北野天満宮 [京都府京都市上京区御前通今出川上る馬喰町]
会期:2017年10月21日(土)〜12月3日(日)
主催:KYOTO NIPPON FESTIVAL実行委員会
[京都市/京都市観光協会/京都文化交流コンベンションビューロー/北野天満宮/華道家元池坊/京都吉兆 FM COCOLO/FM802/ソニー・ミュージックエンタテインメント]
特別後援:エフエム京都　協賛:ジェイアール京都伊勢丹

天満宮
［第十六号］平成二十九年十月三十日　編集・発行／北野天満宮　編集責任者／神原　孝至　〒六〇二―八三八六　京都市上京区馬喰町　電話　〇七五―四六一―〇〇〇五（代表）　http://kitanotenmangu.or.jp/

新年御祝 大福梅と縁起物の授与

◆頒布開始　十二月十三日（火）午前八時半より

◆初穂料
大福梅　七〇〇円
祝　箸　二〇〇円
屠　蘇　五〇〇円
清め塩　一〇〇円
守護縄　五〇〇円
縁起物詰合せ　三〇〇〇円
（但し、無くなり次第頒布終了）

元旦の祝膳に使われる「大福梅」と新年縁起物を今年も事始めの十二月十三日から授与。

梅の枝「おもいのまま」

元旦から授与――

◆頒布開始　平成二十九年元旦より
◆初穂料　一本一〇〇〇円
（但し、無くなり次第頒布終了）

千五十年大萬燈祭（昭和二十七年）の初天神で参拝者に授与していた経緯より、約六十年ぶりに授与を復活させた招福の梅の枝「おもいのまま」。

「おもいのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』

の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。

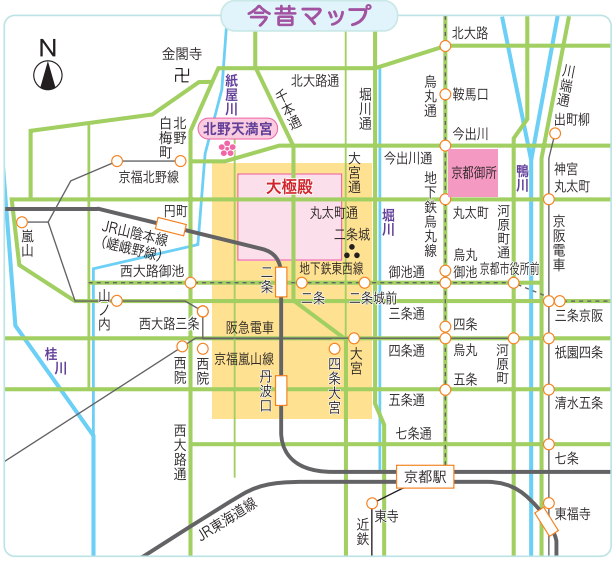
御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
  季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

平安京（大内裏）
大極殿（室町時代迄の平安京）
京都御所（室町時代以降）